

法匠会報

法政大学 工学部 建築学科 同窓会会報

第44号 2008年9月1日

発行所 〒184-8584

東京都小金井市梶野町 3-7-2

振替口座 1-89264

TEL・FAX (042) 387-6385

法政大学工学部建築学科同窓会

発行人 岡本 眞

編集人 会報編集委員会

デザイン工学部 2年目

会長に就任して

岡本 眞 (1970 年卒)

本年4月より永田八郎前会長よりバトンタッチしました。建築同窓会は、歴代先輩のご努力により、次のような活動をしてきました。



学生諸君への助言支援活動として、新入生歓迎会（ウォークラリー）、大江宏賞（同窓会とは別組織）。卒業生を中心とした友好、情報交換、先生方との交流として、新年会、法匠展・50、法匠セミナー（中休み）、新年会、女性ネットワーク（女性・主婦の視点での建築活動）があります。また「法匠会報」の発行と郵送。それにホームページの更新があります。

これらの活動を維持・発展するために執行部があるのですが、一番頭を悩ますのが会報です。他の催しは自己完結（当日の会費で賄う事）を原則にしていますが、会報には印刷代及び送料がかかります。本号までは、これまで同様卒業生全員に送付できますが、上部機関である工学部同窓会では、来年度より同窓会費納入者のみに郵送にするとの事で、わが建築同窓会としても 同道せざるをえません。今後はHPの重要性がより大になります。

会報・HP以外の活動は現段階では東京近郊に在住する卒業生しか参加できないのが現状です。本年はホームページの充実を中心に考えていき、全国の建築卒業生ネットワークの一助になればと思います。

新役員は以下の通り、任期は3年です。

【新執行部役員紹介】

会長	岡本 眞 (学部同窓会副会長)
副会長	安藤照代 (学部同窓会財務)
副会長	佐藤良一 (学部同窓会組織)
事務局	朴 賛弼
常任理事	望月久生 (学部同窓会広報)
新常任理事	後藤真弓 (財務担当)
新常任理事	小島建一 (HP担当)

アドバイザー 小川 格、永田八朗 (WR担当)

監査 猪野 忍、山辺豊彦

雨の中ウォークラリー決行

5月31日(土)恒例の新入生歓迎ウォークラリーが教室と建築同窓会の共催事業として行なわれました。

新入生119名は、導入ゼミの12グループに分れ、上野、東京、銀座、代官山、表参道、谷中、巣鴨の7コースをゼミ担任教員、卒業生、院生、学生と共にあいにくの小雨の中、東京探索を市ヶ谷まで楽しみました。

今年は特に2、3年生、院生の参加が多く、市ヶ谷と小金井に分かれた先輩後輩の貴重な交流の場となりました。

新入生たちは、教室では学べない先輩と

の触れ合いを経験しました。

こうして、250名強が、市ヶ谷校舎のカフェテリアに集い、新入生、引率の教員、先輩から多くの感想報告が飛び交う有意義な懇親会を行ないました。その後 ボアソナードタワーに所を変え、引率者によるお酒も入った和気藹々の二次懇親会を行い、無事解散しました。

今年度のウォークラリーは、導入ゼミ担当の院生TAがコース設定から全ての企画を行ないました。来年も新たな企画が期待できます。OB・OGの方々奮って参加ください。



「法匠会報」は従来全卒業生に送付していましたが、会費の納入が減少し、資金が不足しているため、来年からは会費(年3,000円)を納入した人へのみお送りする予定です。



新年会開催される

1月30日市ヶ谷キャンパスBTスタッフルームにおいて教室、同窓会合同の新年会が開かれた。岩下先生、青木先生、川口先生など退職された先生方もお見えになり、卒業生や現役の先生方との久しぶりの顔あわせとなった。また、1年を経過したデザイン工学部の市ヶ谷展開後の建築学科

の今後の大いなる展望など、思い出と期待に、話題が付きず、おおいに盛り上がった新年会となった。

途中、ミニセミナー企画「川口衛研究会」による川口先生の講演記録小冊子「構造と感性」の特別サイン会のハプニングもあり楽しい夕べとなった。(佐藤良一)

第11回「法匠展・50」開催

第11回「法匠展・50」は、6月13日から17日まで三鷹の武蔵野芸能劇場で行われた。今年は特別展示として、川口衛先生の「構造模型の世界」展とギャラリートーク、さらに第4回大江宏賞受賞作品として永野尚吾さんの「真鶴の小さな家」の模型



などが展示された。

通常の展示には卒業生16人、教員5人、学生12人が参加して、水彩画、油彩、写真、陶芸等の腕を競った。

川口先生の特別展は、川口衛研究会の10回目のセミナーという位置づけも兼ねており、展示された10点ほどの構造模型が話題を集めたほか、ギャラリートークには内外の聴衆が会場を埋めた。

青木繁名誉教授の叙勲祝賀会

今年の春の叙勲にて、青木繁名誉教授が瑞宝中綬章の栄誉に浴されました。先生の永年にわたる研究・教育活動と、その成果を空間構造の創出に活かされた業績が認められた結果と言えます。その叙勲祝賀会が6月27日に東京都千代田区のホテルニューオータニで開催されました。青木先生と親交のある人をはじめ、大学関係者、卒業生、建築・構造関係者ら約300人が出席し受章を祝いました。



祝賀会は、吉田長行先生の司会進行で進められ、挨拶は発起人代表である川口衛先生、友人代表として青木豊先生、松岡理先生、建築家代表で藤本昌也氏からそれぞれ心こもったお祝いの言葉がありました。続いて、鏡割りは武者英二先生(大学)、和田章先生(学会)、播繁氏(JSCA)、榊原信一氏

(ASDO)の4名が各界を代表して行い、乾杯は山門明雄先生の発声で行われ、その後は和やかな懇談会が行われました。

青木先生からは「こんな晴れがましい場所に立つとは思ってもよらなかった。元気が続く限り頑張りたい。こういう席でいつも思うことは、もっと若い人に来て欲しいということ。どうか若い人達への支援をお願いしたい」というメッセージが述べられました。

最後に、坪井善隆先生が故坪井善勝先生から青木先生の人柄について、「あの優しさは神から授かったものだ」という話を披露され、会は盛会のうちに終わりました。(山辺彦彦)



河原一郎先生逝く



建築学科名誉教授、河原一郎先生は2008年6月1日逝去されました。

先生は、建築家・前川國男の

もとでの12年の後、イタリアにわたり、建築家・マンジェロッティ事務所での設計活動を含め3年のヨーロッパ滞在を経て帰国後、1965年、設計事務所を開設されるとともに法政大学工学部建築学科教授に就任され、以来多くの学生を育て、親しまれてきました。

先生の建築や都市への眼差しは、いつもその中心が歴史、風土に向けられ、これはエコ研など建築学科の研究活動に受け継がれています。建築家としては、法政大学学生会館、日比谷高校星陵会館などの設計をされ、長野県での別荘地の開発計画や各地の地域計画に挑まれたりと活動の場は幅広い展開をみせました。

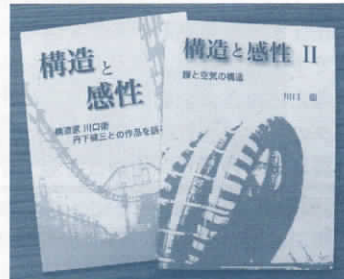
昨年お宅にお訪ねした折りも、まだまだ意気盛んで、建築界への思いやこれからの取り組み等について力強く語っておられただけにまことに残念です。

ながいあいだありがとうございました。安らかに眠り下さい。(猪野 忍)



告別式は先生の設計された渋谷教会で行われた

川口 衛著
『構造と感性』1・2 刊行
(建築同窓会発行：送料込み各1,000円)



川口衛研究会での講演記録です。

■希望者は下記へ

101-0051 東京都千代田区神田神保町1-46
斉藤ビル202 南風舎内建築同窓会事務局
fax: 03-3294-7386
振込用紙と共に送付します。

第4回大江宏賞

永野尚吾君の「真鶴の小さな家」



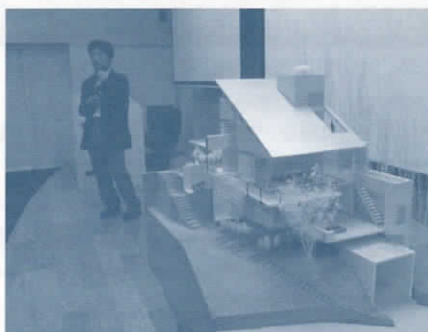
第4回大江宏賞の公開審査会が、4月5日、市谷田町校舎（デザイン工学部棟）5階マルチメディアホールにて行われた。当日は、あらかじめ選ばれた6名の候補者が壇上で模型と図面を使って発表、教員全員と客員教授の早川邦彦氏に3名のOB審査員を加えて公開で行われた。

田町校舎のホールを使った初めての審査会とあって注目されたが、学生、卒業生らで満員の盛況であった。

審査は激論のすえ、審査員全員一致で永野尚吾君（富永ゼミ）の「真鶴の小さな家」と決定し、メダルと賞金が手渡された。

永野君の作品は、図面の美しさ、完成度の高さで高い評価を受けた。

副賞として大江宏賞運営委員長から30



万円が贈られたが、事務局の金子泰造君は「大江宏賞が次第に認知され、学生諸君が積極的にチャレンジしてくれるのは嬉しい。運営委員にも若い人が参加してくれて将来が期待できそう。建築学科のみならずデザイン工学部の特長ある活動として育て欲しい。」と語っている。

今年のOB審査員は、加賀谷幸規（1977卒）、岡崎浩司（1987卒）、二瓶渉（1987卒）の諸君であった。

第1回 大江宏賞受賞者

林 泰寛君 活動の場をアフリカに



私は、2008年6月より青年海外協力隊20年度1次隊の建築隊員としてアフリカ、マラウイ共和国にきています。マラウイの面積は北海道と九州を合わせた程度で、総人口は約1,100万人ほどです。気温は10℃～25℃と大変過ごしやすいです。「ウォームハートオブアフリカ」として知られ、明るく、気さくで、ホスピタリティにあふれた人々が多くいます。しかしながら、アフリカの中でも最も貧しい国の一つとされ、エイズ、マラリア等数多くの問題を抱えている国でもあります。

今回、私はマラウイ北部の最大の都市ムズズの市役所の計画局で、建築設計デザイン、都市計画、建築確認申請の業務に携わっています。ここではムズズ中の建築図面、都市計画図面を見ることができます。その傍ら、Autocadの使い方を教えたりしています。

建物の多くはレンガ積みの壁、RCの柱に、木造トラスの屋根と日本では見られないようなものです。現地語のトゥンブカ語とアフリカ訛りの英語に悪戦苦闘しながら、少しでも役に立てるように頑張っている最中です。（林泰寛——永瀬研出身）



女性ネットワーク

第13回女性ネットワーク総会が開催

5月10日、今年の総会が開催されました。今年度の主な活動計画は小石川後樂園と江戸路地散策、東京都庭園美術館、横須賀美術館、佐倉市民族博物館と小江戸町並み見学会等です。活動は同窓会ホームページでご案内致します。どなたもお気軽にどうぞご参加ください。



小石川後樂園と江戸の路地散策

平成20年6月8日、「江戸東京の路地」の著者、岡本哲志さんを講師に招き、小石川後樂園散策を行いました。この庭園は江戸から東海道、京都、さらに中国へと旅するという壮大な旅を疑似体験できます。光圀公が嬉々として訪問客に庭を案内している姿と、岡本さんのガイドがなぜか重なって思えます。

その後庭園を後に本郷界隈・菊坂では、

住んでいる人々の息遣いが伝わってくるような、親しみを感じる空間を散策しました。百聞は一見にしかず、とありますが、どんなに本で勉強しても、実際にその場で感じる空気にはかないません。岡本さんのガイドのおかげで、知らなかった江戸・東京の今の姿を体験することができ、とても有意義な街歩きでした。（橋本朝子）

ジャンボ鯉のぼり見学会

第9回川口衛研究会として、5月3日川口先生の解説のもと、埼玉県加須市のジャンボ鯉のぼり見学会が行われた。



小金井・市ヶ谷キャンパスから

卒業設計公開講評会 2008

公開講評会は、2008年2月2日(土)1時30分より、小金井キャンパスの講堂において開催された。大江宏設計、武者英二改修設計による講堂の使い納めである。この秋には新校舎建設により解体が始まるからである。講評会の審査には建築学科教員、特別審査員として建築家の青木淳、評論家の五十嵐太郎、若手女性建築家である貝島桃代の3氏を招いた。講評対象は、131作品中から厳選された16作品。発表者は、壇上に図面と模型を運びこみ、パワーポイントの視覚効果やパフォーマンスを添えて作品をアピールした。特別審査員評で「社会問題について解決策を提案し空間化できることはよい」(青木)、「選んだものは粘着的なものを感じた」(五十嵐)、「パワーポイントでは、意味をもっているところまでは読めない」(貝島)エールの言葉とアドバイスが含まれるものであり、後輩達には強い刺激になった一日である。(写真)



講評会の後、同校舎マルチユースホールでレセプションを行った。先生方、同窓会、他大学を含む学年をこえた学生達が多数集まり盛況であった。ここで次の受賞者が発表された。

特別審査員賞■青木淳賞：円城寺香奈(渡辺)、五十嵐太郎賞：増田 亮(大江)、貝島桃代賞：柳澤 彩(渡辺)

卒業設計賞■円城寺香奈、鈴木順子(陣内)、宮本裕也(永瀬)、柳澤彩(渡辺)、渡辺匠(富永)

この講評会は、建築同窓会や協賛企業などによって支えられている。そして運営には、大学院生委員が企画、ポスターやプログラム制作、司会、会場設営など全てを担当し、院生パワーを発揮している。

学外卒業設計展等 法大代表

卒業設計審査と卒業設計公開講評会を経て、次の学生が学外で行われる各種展覧会や出版物掲載の法政大学代表に決まりました。

■JIA展：柳澤彩、宮本裕也 ■日本建築学会：渡辺匠 ■レモン画翠展：渡辺匠 ■近代建築掲載：円城寺香奈

毎日新聞 DAS 賞に宮坂伸平君が入選、4年連続法政快挙

宮坂君(永瀬)の卒業設計「奏—東京の水辺の再構築」が第40回の表記建築部門で入選した。作品は水辺の倉庫群をリノベーションによって活性化させようとしたものである。閉鎖的な壁や天井に変化のある開口をとり、複合機能を持つ内部の様相を外に伝え楽しさを表現して

いる。この毎日 DAS 賞には2005年の広島君(永瀬)、一昨年榎本君(古川)、昨年坂本君(陣内)に続き4年連続受賞である。

建築学科学位授与式晴れやかに、そして謝恩会は青山で

2007年度建築学科卒業生は、学士133名、大学院工学研究科は修士52名、博士2名、計177名が以上の学位を授与された。卒業・修了おめでとう。卒業式は日本武道館、学位記交付は小金井キャンパスで行われた。学位記の交付は、大学院専攻副主任の大江新教授、学部は建築学科主任の佐々木睦朗教授から、一人ずつ手渡された。工学部同窓会からは、成績優秀者として褒賞が次の2名に与えられた。栗山みなみさん(佐々木)、円城寺香奈さん(渡辺)。

3月24日夕、卒業生主催(幹事—佐々木ゼミ)により、ホテルフロラシオン青山において、お世話になった先生方、建築同窓会役員を招いて謝恩会が開催された。先生方からお祝と激励の言葉、そして学生たちからは花束贈呈があり、名残惜しい卒業謝恩の会となった。

2008年度【春】

デザイン工学部建築学科・大学院工学研究科新入生入学

4月3日(木)日本武道館において2008年度の入学式。桜の花に祝福されて建築学科119名、大学院修士52名、計171名の新入生が入学しました。学部新入生とは5/31(土)の午後、教員・OB・院生・学部生と共に都内の建築を見て歩くウォークラリー、そしてゴールの富士見校舎で200名を超える大交歓をみました。

第4回大江宏賞公開審査会

4月5日(土)午後、新装なったデザイン工学部マルチメディアホールで開催された。大学院修士設計19名の中から選ばれた飯塚之通(渡辺)、金子雄一(渡辺)、森元気(渡辺)、増山 武(渡辺)、永野尚吾(富永)、野口 藍(富永)、能登千晶(富永)7名(金子君は都合により欠席)の作品発表で、審査は建築学科教員、OB審査員、それに特別審査員の早川邦彦客員教授、棚瀬純孝氏である。時間内の精一杯の発表、それに鋭い専門的質問がとび対応に学生は必死の対応であった。投票が公開でなされ意見が述べられた。評価された作品はほぼ満場一致で永野君の作品「真鶴の小さな家」が大江宏賞に決まり、審査委員長の大江新教授からメダル、運営委員会代表の高辻秀明氏から副賞の30万円が手渡された。そして「法匠展・50」にも出品された。



「サルデーニャ建築賞 2008」陣内秀信教授が受賞

受賞対象は、著作【La Sardegna vista dai giapponesi : L'architettura popolare, la vita, le feste】(「日本人から見たサルデーニャー民衆の建築、生活、祝祭」)。「Iris Edizioni」出版社より2004年に出版され、人類学の視点も入れて、民衆の生活空間に光を当てたことが高く評価されている。(法政HP参照下さい)

富永譲教授の設計：成増高等看護学校が「2008年日本建築学会作品選奨」および「第8回 JIA 環境建築賞」を受賞

作品選奨は日本建築学会による学術・芸術等の総合的視点から選出される優れた作品に。そして「JIA 環境建築賞」は、「地球環境・建築憲章」の理念に従い、サステナブル社会の創造に合う建築作品が選出される。この建築は環境に配慮しながら芸術的にも優れた作品である。(法政HP参照下さい)

小金井キャンパス新築校舎中庭コンペ特選に野村・宮下君

工学系学部改革に従い、比較的新しい西館、南館を除いて全面建て替えが進んでいる。そこにてできる中庭が「近隣共生」、「環境配慮」をコンセプトに全学学生対象のコンペになり、当大学院生の野村裕志・宮下幸多君(富永)が特選、他全ての賞を建築の学生6組15名が獲得した。

デザイン工学部棟完成

新宿区市谷田町にリフォーム工事中であった田町校舎(デザイン工学部棟)が完成し、4月から供用が始まった。



デザイン工学部のロゴマーク決定

今後デザイン工学部で統一して使用するロゴマークがコンペの結果決定した。Dの字を曲線を使ってデザインしたもの。選ばれたのは建築学科の坂本孝樹(陣内研 M2)君の作品。



夏休みのインターンシップ「建築実務実習」希望者多数。卒業生の協力に感謝

8月～9月半ばにかけての夏季休暇を将来のために切磋琢磨しようと3年生を中心に「建築実務実習」がある。今年もお世話になっております(渡邊、永瀬、吉田、出口)。今年から大学院のインターンシップも始まります。さらなるご協力をよろしくお願い致します。